



# 3月の園だより

令和6年3月 富田林市立錦郡幼稚園



せいちょう じっかん ひ

成長を実感する日

～「さようなら」ではなく「またあした」～

2月17日(土)、3学期最大の取り組みである「生活発表会(劇ごっこ)」を行いました。今年度は、こどもたちの幼稚園生活と密接に関係のある園庭ビオトープで、この一年間に起こった出来事やビオトープを活用した取り組みなどをもとに、こどもたちが話し合い、お互いに支え合いながら、学年ごとに劇を創り上げました。私にとっても、ほし組(3歳児)のこどもたちと同じく初めての劇ごっこであり、練習中も期待と不安が入り混じった複雑な心境でした。「この子たちならきっとやり遂げる」という自信があった反面、「こんな難しいものをやりこなせるのか」という心配も正直ありました。練習を重ねていくとともに、各学年の特長も出てきました。ほし組(3歳児)は、コンスタントに伸びていく姿を見せてくれました。はな組(4歳児)は、終盤一気に上昇気流に乗っていきました。そら組(5歳児)は、最初から本番でいけそうな様子でしたが、少し過信したのか、中だるみの状態が見られました。しかしながら、そこは最高学年、ねじを巻きなおし、更なる高みへとのおぼりつめました。登るルートに違いこそありましたが、それぞれの学年が本番でみごと頂きに着きました。当日を中心とした取り組みの様子は、別途配布します『保護者のみなさんの感想集』から読み取っていただければと思います。私は、どのような取り組みでも本番よりも前日が楽しみです。ある歌手の曲の一部に「次の夜から欠ける満月より、十四番目の月が一番好き」という歌詞があります。取り組み本番を満月の日とすると、この日より、取り組み前日である十四番目の月の日のほうが好きだということなのです。どのような取り組みも、結果の如何にかかわらず本番当日で一旦終わります、寂しくもあります。が、前日は「明日はやるぞ!」という高揚感と「明日はいけるかな?」という不安感の両方を味わうことができるのです。そう、この前日は、どんな人も人間としてぐんと成長する日であると実感しています。そしてこれからも、さまざまな取り組みを通じてこどもたちとともに成長する自分でありたいものです。

なお少し早いのですが、保護者のみなさんにおかれましては、今年度、本園教育活動にご理解ご協力をいただき誠にありがとうございました。合わせて、『そらぐみセブン』のこどもたち、保護者のみなさんには、修了(卒園)おめでとございます。そして「さようなら」ではなく「また、あした」、小学校へ行かれても引き続き『にしこおりファミリー』としてお付き合いいただければ幸いです。今後ともよろしく願いいたします。

えんちょう しおの よしかず  
園長 塩野 義和

## \*育てたいこと\*

### 《3歳児》

・友達と一緒に活動することを楽しむ。・大きくなることを喜び、進級を楽しみにする。

### 《4歳児》

・進級への期待をもち、友達との関わりを深めながら、意欲的にいろいろな活動を楽しむ。  
・身近な自然の変化に気付き、春の訪れを感じる。

### 《5歳児》

・自分たちで生活や遊びを進めていく楽しさや充実感を味わう。  
・就学への喜びや期待をもって行動する。・春の訪れに気付き、自然の変化に興味や関心をもつ。